

ろくおん通信

発行日： 1993年 2月15日

No. 50号

発行者： 盲人情報文化センター録音製作

「音(声)訳」を考える 第1回

盲人情報文化センター
録音製作係 清水賢造

はじめに

今回から録音図書づくりの中心となっている「音(声)訳」について考えていきます。

今ごろ、なぜ「音(声)訳」について改めて取り上げるのかということですが、実は、今回発行された改訂版「レコーディングマニュアル」においても、「音(声)訳」という概念が十分表現されていません。「処理」の例として出されている例文も、適切な例文が使われていないところもあり、かえって「処理」の意味が曖昧になっている点もあります。

一方、録音図書づくりの現場においても、ボランティアが、それぞれに「音(声)訳」についての考えを持ち、校正者や音訳者の間で混乱が見うけられます。盲人情報文化センターでは録音図書を、音(声)訳者、校正者、編集者と4、5人が協力しながら製作していますので、作業を円滑にすすめる為に「音(声)訳」についての共通の認識が求められています。

今回提起しようとする内容は、ここ数年音訳の仕事に携わってきた一職員の意見です。音(声)訳ボランティアの方々からも疑問や意見を大いに出して頂き、「音(声)訳」とは何かという事を考えていきたいと思えます。

1. 「音(声)訳」の定義

「音(声)訳」とは何か、旧「レコーディングマニュアル」には「音(声)訳」についての概念を定義した表現は見あたりません。「レコーディングマニュアル」全体を読んで理解して欲しいということになるようです。今回の改訂版の「レコーディングマニュアル」では、『「音(声)訳」とは、正しい情報を伝えること。』であり、『書かれていることを書かれている通りに音声に置き換えること』とあります。また、『「音(声)訳」の仕事は、「何も加えず、何も減じず」が理想的である』と強調されています。

しかし、これだけでは「音(声)訳」の定義としては的確に表現しているとはいえないようです。何故なら、一面では「何も加えず、何も減じず」はあたっていますが、現実の「音(声)訳」の場合は、「音(声)訳者」が、「必要に応じて言葉を言い添えたり、削除しながら読む」場合があるからです。

例えば、改訂版の『レコーディングマニュアル』でも、原文の一義的な再現の例として次のような例を上げています。

『・・・2カケル3ブンノ4タス5といった読み方では役に立ちません。つまりこれでは、 $2 \times 4 / 3 + 5$ なのか、 $(4 + 5) / (2 \times 3)$ なのか、 $2 \times (4 + 5) / 3$ なのか、 $4 / (2 \times 3) + 5$ なのかの区別ができないからです。・・・読む人が書いてある通りに読んだつもりでも、聞く人がもとの情報と違った内容をうけとることになるのは困ります。・・・』

つまり、「音(声)訳」の仕事は書いてある通りに読むことであっても、それだけでは不十分な時があり、必要に応じて適切な言葉を補わなければならないことがある例をわざわざ上げているのです。が、実は『レコーディングマニュアル』では、「何も付け加えず、何も減じず」が強調されるあまり、「必要に応じて、付け足したり削除したりする」ことの説明が充分されていないと言えます。そこで、この両方を大切な点として「音(声)訳」を位置づけるとしたら、「音(声)訳」の定義は次のようにすべきであると思います。

『「音(声)訳」とは、文字(記号、図、表、写真などを含む)で表現されている墨字原本を音声に変換して、原本の内容を出来る限り正確に伝える作業のこと』

「書いてあることを書いてある通りに読む」という点については、ボランティアの間でも一定の理解は進んでいると思いますが、墨字原本を音声というものに変換して内容を伝えるには、この「補足したり、削除したりする作業」も大切な要素であるということはまだ充分認識されているとはいえません。聞く人に正しく伝える為の「音声変換技術」は、一定の訓練と能力が要求されます。

今回、取り上げて考えようとしている点もまさにこのテーマなのです。

つづく

正誤表から・・・その25

語句	誤読	正しい読み	語句	誤読	正しい読み
相殺	ソウサツ	ソウサイ	嗅覚	シュウカク	キュウカク
重篤	ジュウアツ	ジュウトク	法身	ホウシン	ホッシン
易经	エキケイ	エキキョウ	口伝	コウデン	クデン
伝播	デンパン	デンパ	要人	ヨウニン	ヨウジン

※訂正 「心算」を前号で「シンザン」は誤読としましたが「シンザン」も「シンサン」も両方ありましたので訂正しておきます。宏辞苑、日本国語大辞典は「シンザン」、三省堂国語辞典、大辞林、NHKアクセント辞典は「シンサン」を採用しています。この欄に掲載しているものは校正表で上げられたものですが、辞書に両方あるものまで訂正の必要はありません。念のために他の辞書にもあたってみることも大切です。

二通りの読み方がある各々意味が異なるもの・・・その12

一巻	イカン イマキ	巻物などの一つ。第一の巻 一部の書物の内容のすべて	家主	イマルジ ヤヌ、イヌシ	一家の主人 一家の主人、貸家の主
上様	カミサマ ウエサマ アゲサマ	身分ノ人ノ妻ノ敬称 貴人の総称 上ノ方ニアゲルウニルト、上向	明白	メイハク アキソ	明カガ 疑ク余地ノイ事 文字ト 書イ紙ノ左右、天地ノ 空白。
月額	ゲツガク サキキ	ひと月あたりの金額 男ノ額髪ヲ頭ノ中央ニカケ半月 形ニ剃リ落トシタメ	上掛	ウカケ ウカケ	上に引っかける物 下染ヲシ後、他ノ染料ヲソノ上ヲ染ル ト。

Q & A

Q: ミニディスクが今話題になっていますが、これは録音機として活用できるのでしょうか。

A: 現在、ソニーが録音・再生可能なミニディスクウォークマンタイプ (MD WAKMANL MZ-1: 定価79,800円) と据置型 (MDS-101: 定価は10万円程度) を発売しています。盲人情報文化センターでは、ウォークマンタイプの録音機を購入し、実験的に録音機として使ってみているところです。

それによると、これまでのカセットデッキでの録音と比べて操作がかなり複雑です。また、後追い録音などができませんので録音図書製作用には、今のところ適しているとはいえないようです。しかし、挿入や削除が自由に出来ること、検索などもインデックスを付けることでほとんど瞬時にできることなどの点を生かした活用も充分考えられます。図・表・写真などの多いもの、漢字などの説明が多いものなど、後で挿入や削除するケースの多い作品の録音には向いているでしょう。もちろん最後にはミニディスクからカセットに落とす作業も必要になります。

とにかく、まだ発売されたばかりですので、今後、録音図書製作用にも便利な機能が付いてくることが予想されますので、それまで様子を見るべきでしょう。

グループ連絡会のご案内

日時： 1993年3月26日（金）
13：30～15：30

場所： 盲人情報文化センター6階

内容： 1. グループリーダーを中心に処理の研修。
(第2回、()の処理の研究)
2. グループ交流
3. その他

お知らせ

**93年度の音訳講習会の詳しい内容は3月中旬には決まりますのでそれまでしばらくお待ち下さい。

リクエスト図書一覧

下記の図書は利用者から音訳依頼を受けています。音訳してもよいと思われるグループや個人の方がいましたら、下記までご連絡ください。
(連絡先：06-441-0015 盲人情報文化センター録音製作係・清水)

『朱龍賦』/伴野朗著：<小説>

『私書箱9号』/ジャック・オルコス著：<小説>

『大学受験問題 国語』/：(各大学の国語入試問題と解答)

『国家論』/東京神学大学神学会：

『棟居刑事の復讐』/森村誠一著：

『私説 巖島合戦』/皆本幹雄著：

<>内は分類

『ろくおん通信』に関する質問、意見などがございましたら下記までご連絡ください。

盲人情報文化センター録音製作係 清水 (06-441-0015)